

絶滅危惧Ⅱ類																			
<p><b>アツバサイハイゴケ</b></p> <p><i>Asterella mussuriensis</i> (Kashyap) Verd. ssp. <i>crassa</i> (Shimizu &amp; S.Hatt.) D.G.Long</p>																			
<p>【判定理由】</p> <p>県内の生育地は2か所しか確認されていないが、うち1か所の生育地は大きくて安定している。また、低地での調査が十分ではなく、今後調査が進めばさらに生育地が発見されると期待される。</p> <p>【生育環境・生態】</p> <p>主に石灰岩地の湿った崖に生育する。</p> <p>【現状】</p> <p>今回の調査では確認しなかった。</p>	<p>【国内分布】</p> <p>本州(関東地方)</p> <p>【県内分布】</p> <p>箱根町金時山山頂、横浜市栄区長倉町</p> <p>【存続を脅かす要因】</p> <p>登山道整備、道路建設、土地造成</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	—	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類																	
	1995	—																	
環境省	2020	—																	
神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類																	
	1995	—																	
環境省	2020	—																	

ゼニゴケ科

絶滅危惧Ⅱ類																			
<p><b>ヒトデゼニゴケ</b></p> <p><i>Marchantia pinnata</i> Steph.</p>																			
<p>【判定理由】</p> <p>県内の生育地は2か所しか確認されていないが、低地での調査が十分ではなく、今後調査が進めばさらに生育地が発見されると期待される。</p> <p>【生育環境・生態】</p> <p>低地の常緑広葉樹林内で火山灰質の湿った崖面や土上に群生。</p> <p>【現状】</p> <p>今回の調査では確認しなかった。</p>	<p>【国内分布】</p> <p>本州(千葉県、神奈川県、山口県)以南</p> <p>【県内分布】</p> <p>横浜市金沢区朝比奈町・釜利谷南2丁目</p> <p>【存続を脅かす要因】</p> <p>市街化、道路建設、土地造成</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	—	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類																	
	1995	—																	
環境省	2020	—																	
神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類																	
	1995	—																	
環境省	2020	—																	

ウキゴケ科

準絶滅危惧																			
<p><b>イチョウウキゴケ</b></p> <p><i>Ricciocarpos natans</i> (L.) Corda</p>																			
<p>【判定理由】</p> <p>県内では広い範囲で確認されており、現時点での絶滅危険度は小さいが、農薬散布や耕作方法の変化などにより生育条件が悪化していることが懸念される。今回はより客観的に判断しランクを見直した。環境庁レッドリストでもかつては絶滅危惧Ⅰ類とされていたが、見直された。</p> <p>【生育環境・生態】</p> <p>水田や池の水面に浮遊して生育する。水を抜いた水田や裸地にも生育する。</p> <p>【現状】</p> <p>毎年春先から晩秋にかけて水田や遊水池など決まったところに広がることが多い。畦や河川敷などの土上に小さなロゼットを作り着生することもある。</p>	<p>【国内分布】</p> <p>北海道～琉球</p> <p>【県内分布】</p> <p>相模原市緑区、愛川町、厚木市、秦野市、伊勢原市、小田原市、平塚市、茅ヶ崎市、川崎市麻生区、横浜市栄区、戸塚区、緑区</p> <p>【存続を脅かす要因】</p> <p>市街化、池沼開発、河川開発、水田の畑地化、農薬汚染</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	準絶滅危惧	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	準絶滅危惧
神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類																	
	1995	—																	
環境省	2020	準絶滅危惧																	
神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類																	
	1995	—																	
環境省	2020	準絶滅危惧																	

絶滅危惧Ⅱ類

ミヤマミズゼニゴケ

*Calycularia laxa* Lindb. & Arnell

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

県内の生育地は7か所知られているが、少なくともうち1か所は消失しており、多くの生育地は不安定である。

【生育環境・生態】

主に古生層地域のブナ帯の湿岩上に生育している。

【現状】

今回の調査では箱根・駒ヶ岳で登山道脇の崖に点々と生育していることが確認できた。

【国内分布】

北海道、本州、九州(北部)

【県内分布】

箱根町駒ヶ岳・神山・早雲山・上二子山・金時山、山北町菰釣山・大滝沢(消失)

【存続を脅かす要因】

森林伐採、登山道整備、道路工事

クモノスゴケ科

情報不足

クモノスゴケモドキ

*Pallavicinia ambigua* (Mitt.) Steph.

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の生育地は1か所しか確認されていないが、他種と混同されている可能性があり、今後調査が進めばさらなる生育地が発見される可能性がある。

【生育環境・生態】

常緑広葉樹林内の湿岩上に純群落を作る。

【現状】

今回の調査では確認しなかった。

【国内分布】

本州(千葉県以西)～琉球。太平洋側に多く分布。

【県内分布】

箱根町畑宿須雲川

【存続を脅かす要因】

森林伐採

アミバゴケ科

情報不足

アイバゴケ

*Plicanthus birmensis* (Steph.) R.M.Schust.

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の生育地は1か所しか知られていないが、小型でわかりにくく、今後調査が進むとさらなる生育地が発見される可能性が高い。

【生育環境・生態】

常緑樹林から落葉樹林帯の林内または明るい場所の岩上や腐木、腐植土上に平らなかたまりで生育する。

【現状】

今回の調査では確認しなかった。

【国内分布】

本州(関東以西)

【県内分布】

津久井町丹沢山～蛭ヶ岳

【存続を脅かす要因】

森林伐採

【特記事項】

アイバゴケとトゲアイバゴケの違いは連続的で、分類学的取扱いに疑問が残る(Kitagawa 1965を参照)。

情報不足									
<p><b>トゲアイバゴケ</b></p> <p><i>Plicanthus hirtellus</i> (F.Weber) R.M.Schust.</p> <p>【判定理由】 前回調査以降の神奈川県新産種で、県内の生育地は3か所確認されているが、小型でわかりにくく、今後調査が進むとさらなる生育地が発見される可能性が高い。</p> <p>【生育環境・生態】 低地から高地の岩上に生育。</p> <p>【現状】 金井(2011)により神奈川県新産として報告された。鈴木(2017)による詳細な報告がある。金時山では他種にわずかに混入していたものが確認されているのみで、群落は見つかっていない(鈴木 2017)。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東以西)～九州</p> <p>【県内分布】 山北町三国山(金井 2011)、箱根町芦ノ湖・金時山(鈴木 2017)</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採</p> <p>【特記事項】 県内で確認されている標本は3か所のいずれのものも葉裂片の鋸歯が少なく、アイバゴケとの識別が困難である。アイバゴケとトゲアイバゴケの違いは連続的で、分類学的取扱いに疑問が残る(Kitagawa 1965を参照)。</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							

準絶滅危惧									
<p><b>シフネルゴケ</b></p> <p><i>Schiffneria hyalina</i> Steph.</p> <p>【判定理由】 前回調査時点では県内の生育地が1か所しか確認されていなかったが、新たに2か所で発見されており、また、十分に広い範囲に大量に生育していたため、現時点での絶滅の危険度は小さいと判断した。</p> <p>【生育環境・生態】 常緑樹林の倒木上や、樹木の根本に生育する。</p> <p>【現状】 今回の調査では箱根神社境内の群落が確認されている。箱根町大涌谷にも大量に生育している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州～琉球</p> <p>【県内分布】 箱根町元箱根(箱根神社)、大涌谷、芦ノ湖西岸(佐々木 2011)</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採、道路工事</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I 類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I 類						
	1995	—							
環境省	2020	—							

情報不足									
<p><b>イチョウゴケ</b></p> <p><i>Tritomaria exsecta</i> (Schmid.) Schiffn.</p> <p>【判定理由】 県内の生育地は1か所しか知られていないが、小型でわかりにくく、今後調査が進むとさらなる生育地が発見される可能性が高い。</p> <p>【生育環境・生態】 亜高山帯以上の倒木や腐植土上に生育する。</p> <p>【現状】 今回の調査では確認しなかった。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">情報不足</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道～九州</p> <p>【県内分布】 清川村丹沢山～天王寺尾根</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採</p>	神奈川県	2006	情報不足	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		情報不足						
	1995	—							
環境省	2020	—							

情報不足

## オヤコゴケ

*Schistochilopsis cornuta* (Steph.) Konstant

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内の生育地は2か所知られているが、小型でわかりにくく、今後調査が進むとさらなる生育地が発見される可能性が高い。

## 【国内分布】

北海道～九州

## 【県内分布】

津久井町丹沢山～蛭ヶ岳、清川村丹沢山

## 【生育環境・生態】

主にブナ帯の土上、腐木上などに生育する。

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採

## 【現状】

今回の調査では確認しなかった。

## チチブイチョウゴケ科

絶滅危惧Ⅰ類

## チチブイチョウゴケ

*Acrobolbus ciliatus* (Mitt.) Schiffn.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

## 【判定理由】

県内の生育地は2か所しか知られておらず、そのうち1か所は特に少量のみで、いずれの生育地でも安定的な存続が危ぶまれる。

## 【国内分布】

本州(関東地方～紀伊半島)～九州

## 【県内分布】

箱根町上二子山、山北町用木沢

## 【生育環境・生態】

ブナ帯の古世層地域の湿岩上に生育する。

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採、治山工事、岩場崩壊

## 【現状】

今回の調査では山北町用木沢でごく少量がチチブハネゴケに混生していることを確認した。

## カサナリゴケ科

情報不足

## エゾヒメヤバネゴケ

*Hygrobiella laxifolia* (Hook.) Spruce

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内のはっきりした生育地は1か所しか知られていないが、小型でわかりにくく、判定するに足る十分な情報が得られていない。

## 【国内分布】

北海道～九州

## 【県内分布】

山北町玄倉カヤノキ棚沢

## 【生育環境・生態】

ブナ帯以上の溪谷の岩上に生育する。

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採、治山工事、岩場崩壊

## 【現状】

今回の調査では確認しなかった。

## 【特記事項】

Bakalin & Vilnet (2014)は、神奈川県産の標本を引用し、新種*H. squamosa*を本種と区別して発表している。ニシムラヤバネゴケも含めた種概念の再確認が必要である。

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ニシムラヤバネゴケ</b>		神奈川県	2006 1995	絶滅危惧Ⅰ類
<i>Hygrobrella nishimurae</i> N.Kitag.		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
近年2か所の新産地が報告され、それらを含めて県内の生育地は4か所となるので、ランクを見直した。

**【生育環境・生態】**  
溪流沿いの湿岩上に生育する。

**【現状】**  
佐々木(2009a)は小田原市入生田から、小久保ほか(2013)は逗子市神武寺から本種を報告している。

**【国内分布】**  
本州(千葉県以西)～九州、屋久島

**【県内分布】**  
湯河原町幕山、箱根町畑宿須雲川、小田原市入生田(佐々木 2009a)、逗子市神武寺(小久保ほか 2013)

**【存続を脅かす要因】**  
森林伐採、治山工事、岩場崩壊

**【特記事項】**  
Bakalin & Vilnet (2018)が本種についてまとめているが、日本人研究者のこれまで種の認識との整合性を再確認する必要がある。

ミゾゴケ科

絶滅危惧Ⅰ類				
<b>ノグチサキジロゴケ</b>		神奈川県	2006 1995	絶滅危惧Ⅰ類
<i>Gymnomitrium noguchianum</i> S.Hatt.		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
県内の生育地が1か所しか知られていない。他に予想される生育地もない。

**【生育環境・生態】**  
新しい火山の露岩上に生育する。

**【現状】**  
今回の調査では確認しなかった。

**【国内分布】**  
神奈川県他には、栃木県那須岳、東京都伊豆諸島、鹿児島県トカラ列島

**【県内分布】**  
箱根町金時山頂上

**【存続を脅かす要因】**  
森林伐採、踏みつけ

☑️写真あり: 口絵7

ソロイゴケ科

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ホリカワツボミゴケ</b>		神奈川県	2006 1995	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Solenostoma fusiforme</i> (Steph.) R.M.Schust.		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
県内の生育地は新たな報告も含めて2か所しか知られていない。ただし、類似種との区別が困難で、今後数か所は生育地が発見されることが期待される。

**【生育環境・生態】**  
崖面の土上などに生育する。

**【現状】**  
今回の調査では確認しなかった。

**【国内分布】**  
本州(東北地方以南)～九州、琉球

**【県内分布】**  
湯河原町幕山、小田原市入生田(佐々木 2009a)

**【存続を脅かす要因】**  
森林伐採、道路工事

## ムチゴケ科

## 情報不足

## ヤマトムチゴケ

*Bazzania japonica* (Sande Lac.) Lindb.

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内のはっきりした生育地は1か所しか知られていないが、判定するに足る十分な情報が得られていない。

## 【生育環境・生態】

常緑樹林の林床、岩上、樹幹に着生する。

## 【現状】

今回の調査では確認しなかった。

## 【国内分布】

本州～琉球

## 【県内分布】

山北町白石峠

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採、登山道整備

## ハネゴケ科

## 絶滅危惧Ⅱ類

## チチブハネゴケ

*Plagiochila flexuosa* Mitt.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内の生育地はこれまでに4か所知られている。群落の規模などからランクをより客観的に見直した。

## 【生育環境・生態】

湿度の高い落葉樹林内(標高200-1,000m)の岩上(特に石灰岩)に純群落を作る。

## 【現状】

今回の調査では山北町用木沢で、前回調査では山北町玄倉川でまとまった群落を確認した。箱根町二子山からはInoue (1958) の報告があるが、その後確認されていない。

## 【国内分布】

本州(埼玉県以南)、九州

## 【県内分布】

山北町用木沢・玄倉川・畦ヶ丸、箱根町双子山(Inoue 1958)

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採

## ヤスデゴケ科

## 絶滅危惧Ⅰ類

## イワツキヤスデゴケ

*Frullania iwatsukii* S.Hatt.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内の生育地は1か所しか知られていない。国内でも希少種である。

## 【生育環境・生態】

中部地方の山地の樹幹または枝上で、シダレヤスデゴケよりも高い位置に平らなマットで着生する。

## 【現状】

前回調査では、丹沢山天王寺尾根のブナの樹幹と、堂平のサワグルミの樹幹にそれぞれ貧弱な群落が着生していた。今回の調査では確認しなかった。

## 【国内分布】

長野県に希産

## 【県内分布】

清川村丹沢山天王寺尾根～堂平

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採

情報不足			
<b>ミヤジマヒメゴヘイゴケ</b>		神奈川県	2006 情報不足
<i>Archilejeunea planifolia</i> (Horik.) Mizut.			1995
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 県内の生育地は1か所しか確認されていないが、小型でわかりにくく、今後調査が進めばさらなる生育地が発見される可能性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 常緑樹林帯から落葉樹林帯の溪谷など湿度の高い場所の岩上、樹幹に小さな群落で着生する。</p> <p>【現状】 今回の調査では確認しなかった。</p>	<p>【国内分布】 本州(栃木県以南)～屋久島</p> <p>【県内分布】 厚木市谷太郎川</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採、河川開発</p>		

情報不足			
<b>イボケクサリゴケ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧Ⅰ類
<i>Cololejeunea denticulata</i> (Horik.) S.Hatt.			1995
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 県内の生育地が1か所しか知られていないが、小型でわかりにくく、判定するに足る十分な情報が得られていないと判断をしない。</p> <p>【生育環境・生態】 湿度の高い常緑樹林内の生葉上や樹皮上に小さなマットで着生する。</p> <p>【現状】 湿度の高い河原の灌木林の岩上に少量が着生しているのがかつて確認されていたが、今回の調査では確認できていない。</p>	<p>【国内分布】 本州(神奈川県以西)</p> <p>【県内分布】 山北町用木沢</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採</p>		

情報不足			
<b>カミムラヒメクサリゴケ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Cololejeunea magnipapillosa</i> (Kamim.) P.C.Chen & P.C.Wu			1995
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 前回調査以降の神奈川県新産種で、県内の生育地が1か所しか知られていないが、小型でわかりにくく、判定するに足る十分な情報が得られていない。</p> <p>【生育環境・生態】 暖地の樹上や葉上に着生する。</p> <p>【現状】 平岡・平岡(2008)が恩賜箱根公園のイヌツゲの枝上に少量が着生しているのを見出したが、今回の調査でも確認できた。</p>	<p>【国内分布】 本州(近畿以南)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 箱根町恩賜箱根公園(平岡・平岡 2008)</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採、市街化</p>		

情報不足

## ナカジマヒメクサリゴケ

*Cololejeunea nakajimae* S.Hatt.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内の生育地が4か所しか知られていないが、小型でわかりにくく、判定するに足る十分な情報が得られていない。

## 【生育環境・生態】

湿度の高い川辺や池のほとりの樹幹、枝、腐木上に着生する。

## 【現状】

県内では川岸のタケの腐木や樹幹の基部、池の縁のツツジやアスナロの枝にわずかに生育する(磯野 2010)。今回の調査で相模原市緑区志田山国有林でも確認された。

## 【国内分布】

宮城県～岡山県にかけてだが、日本海側に多い

## 【県内分布】

南足柄市清佐衛門地獄池、平塚市吉沢、横浜市磯子区峰町、相模原市緑区志田山国有林

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採、河川開発、湿地開発

## 【特記事項】

県内からは河津(2005)、湘南コケの会(2005)、佐々木(2009b)により、ウニバヨウジョウゴケ *C. spinosa* として報告されていたが、磯野(2010)は標本を検討して本種だと結論づけた。

絶滅危惧Ⅱ類

## ヨウジョウゴケ

*Cololejeunea trichomanis* (Gottsche) Steph.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	—
環境省	2020	準絶滅危惧

## 【判定理由】

県内の生育地が、新たな報告もあり、2か所知られるようになった。また、小型でわかりにくく、今後調査が進めばさらなる生育地が発見されると思われる。そのため評価を見直した。

## 【生育環境・生態】

湿性常緑樹林の溪谷の生葉上や樹幹に着生している。

## 【現状】

前回調査では湯河原町幕山公園の新崎川沿いの標高340m付近に生えるクスノキ樹幹に、佐々木(2009a)では小田原市入生田のミカン畑の生葉・落枝に、それぞれ着生していたが、今回の調査では確認していない。

## 【国内分布】

本州～琉球

## 【県内分布】

湯河原町幕山公園、小田原市入生田(佐々木 2009a)

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採、河川開発

絶滅危惧Ⅰ類

## ヤマトサンカクゴケ

*Drepanolejeunea erecta* (Steph.) Mizut.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内の生育地は1か所しか知られていない。

## 【生育環境・生態】

常緑樹林帯の岩上、倒木や樹幹などに生育する。

## 【現状】

今回の調査では確認できなかった。

## 【国内分布】

本州(神奈川県以西)～九州

## 【県内分布】

南足柄市大雄山最乗寺

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採



情報不足		神奈川県		2006		情報不足	
<b>ナンヨウサンカクゴケ</b>				1995			
<i>Drepanolejeunea ternatensis</i> (Gottsche) Schiffn.		環境省		2020		—	

【判定理由】  
県内の生育地は1か所しか確認されていないが、小型でわかりにくく、今後調査が進めばさらなる生育地が発見される可能性がある。

【生育環境・生態】  
落葉樹林帯以下で樹幹や倒木上に生育する。

【現状】  
前回調査ではスギ林の樹皮上に群落を形成していたが、今回の調査では確認しなかった。

【国内分布】  
本州(宮城県以南)～琉球

【県内分布】  
清川村堂平～堂平沢

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

情報不足		神奈川県		2006		情報不足	
<b>カギゴケ</b>				1995			
<i>Drepanolejeunea vesiculosa</i> (Mitt.) Steph.		環境省		2020		—	

【判定理由】  
県内の生育地は1か所しか確認されていないが、小型でわかりにくく、今後調査が進めばさらなる生育地が発見される可能性がある。

【生育環境・生態】  
低地の落葉広葉樹林及び常緑広葉樹林内の樹幹に他の小形の苔類と混生する。

【現状】  
前回調査ではヤブツバキの樹皮上に生育していたが、今回の調査では確認できなかった。

【国内分布】  
本州(福島県以南)

【県内分布】  
南足柄市大雄山最乗寺

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県		2006		—	
<b>カビゴケ</b>				1995			
<i>Leptolejeunea elliptica</i> (Lehm. & Lindenb.) Schiffn.		環境省		2020		準絶滅危惧	

【判定理由】  
前回調査以降の神奈川県新産種だが、県内の生育地は3か所確認されており、そのうち少なくとも1か所では広範囲に生育している。

【生育環境・生態】  
常緑樹林の渓谷などの生葉上に着生。

【現状】  
湯河原町幕山では、平岡ほか(2005)の調査で確認されていなかったが、2009年に川岸からやや離れた梅林の樹幹に少量が確認された(磯野 2010)。相模原市緑区美女谷からも報告されている(磯野 2010)。今回の調査では、相模原市緑区志田山国有林の、川沿いの深い谷の生葉上や枝上に豊富に着生していることを確認した。

【国内分布】  
本州(福島県以南)～琉球

【県内分布】  
湯河原町幕山、相模原市緑区美女谷・志田山国有林

【存続を脅かす要因】  
森林伐採、河川開発

ケビラゴケ科

準絶滅危惧

オオシタバケビラゴケ

*Radula cavifolia* Hampe

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の生育地が新たに3か所報告され、あわせて5か所から知られることとなったが、微少な種であるので他の種と混成している場合があり、今後さらに発見されることが期待される。そのため、現時点での絶滅危険度は小さい。

【生育環境・生態】

常緑樹林の樹幹に生育する。希に岩上にも生育がみられる。

【現状】

今回の調査では箱根町恩賜箱根公園で健全に生育しているのを確認した。

【国内分布】

本州(神奈川県以南)～琉球

【県内分布】

湯河原町幕山、箱根町芦ノ湖西岸(佐々木 2011)、恩賜箱根公園(平岡・平岡 2008)、南足柄市清佐衛門地獄池(佐々木 2009b)、山北町白石峠

【存続を脅かす要因】

森林伐採

ミスゴケ科

絶滅危惧Ⅱ類

オオミスゴケ

*Sphagnum palustre* L.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

県内の生育地は3か所確認されており、そのうち2か所は安定している。より客観的に判断しランクを見直した。環境庁レッドリストでもかつては絶滅危惧Ⅰ類と過大評価されていたが、見直された。

【生育環境・生態】

山地の湿った地上や中間湿原に、カーペット状の大きな群落をつくる。

【現状】

早雲山と仙石原湿原の群落は健全に維持されている。

【国内分布】

北海道～九州

【県内分布】

箱根町芦之湯・早雲山(最乗寺箱根別院)・仙石原湿原

【存続を脅かす要因】

池沼開発、湿地開発、道路工事、園芸採取

📷写真あり: 口絵7

クロゴケ科

絶滅危惧Ⅱ類

クロゴケ

*Andreaea rupestris* Hedw. var. *fauriei* (Besch.) Takaki

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の生育地は1か所増えて4か所確認できているので、評価を見直した。

【生育環境・生態】

高山の山頂付近の日当たりのよい岩上に背の低い群落を作る。

【現状】

箱根駒ヶ岳の山頂では尾根上の露出した火成岩上に安定して生育していることを確認した。鈴木均氏が丹沢・蛭が岳で新たに確認した。

【国内分布】

北海道～九州

【県内分布】

箱根町駒ヶ岳・神山、丹沢・蛭が岳、清川村丹沢山天王寺尾根

【存続を脅かす要因】

登山道整備、踏みつけ、岩場崩壊

絶滅危惧Ⅱ類			
フウリンゴケ <i>Bartramiopsis lescurii</i> (James) Kindb.	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
		1995	
	環境省	2020	—

【判定理由】  
県内の生育地が近接して4か所知られているのみである。

【生育環境・生態】  
高山～亜高山帯の土上に群生する。

【現状】  
箱根駒ヶ岳では登山道脇の崩れそうな土手に大きな群落が点々と安定して生育していることを確認した。

【国内分布】  
北海道～九州

【県内分布】  
箱根町駒ヶ岳・神山・冠ヶ岳

【存続を脅かす要因】  
登山道整備、岩場崩壊

【特記事項】  
本種は本来亜高山帯以上に見られる植物であり、県内で見られることは貴重である。

◀写真あり: 口絵7

絶滅危惧Ⅰ類			
ハリスギゴケ <i>Polytrichum piliferum</i> Hedw.	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
		1995	
	環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では、平岡・平岡(2004)が北海道から移入されたと思われる栽培混入品を報告しているが、天然の生育地は1997年を最後に20年以上確認されていない。

【生育環境・生態】  
高地の日当たりのよい岩上や砂の中に生育する。

【現状】  
1997年まで確認されていた山北町用木沢(標高650m)の群落は前回調査までに消失が確認されており、その後現在まで確認できていない。平岡・平岡(2004)が報告した岡本太郎美術館屋上には、現在も生育していることを確認した。

【国内分布】  
北海道～本州(中部)

【県内分布】  
山北町用木沢(消失)、川崎市多摩区生田緑地岡本太郎美術館屋上(植栽)

【存続を脅かす要因】  
登山道整備、治山工事、岩場崩壊

絶滅危惧Ⅰ類			
カシミールクマノゴケ <i>Diphyscium kashimirensis</i> (H. Rob.) Magombo	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
		1995	
	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
県内の生育地は3か所しか確認されておらず、いずれの生育地でも生育量がわずか。

【生育環境・生態】  
湿った谷間の岩上などに、少量がまとまって生える。

【現状】  
今回の調査では確認しなかった。

【国内分布】  
本州(福島県以南)～九州

【県内分布】  
湯河原町鍛冶屋(しどの窟)、南足柄市矢倉沢夕日の滝、伊勢原市日向溪谷

【存続を脅かす要因】  
河川開発、堰堤工事、川相変化

絶滅危惧Ⅱ類

クマノゴケ

*Diphyscium lorifolium* (Cardot) Magombo

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
新産地報告を含め県内の生育地は3か所確認されているため評価を見直した。

【生育環境・生態】  
溪流沿いの水をかぶる岩上に少量がまとまって生える。

【現状】  
それぞれの生育地で水のかかる岩上にごく少量が生育していることが報告されている。

【国内分布】  
本州～九州  
【県内分布】  
湯河原町鍛冶屋しとどの窟、箱根町畑宿須雲川、箱根峠(佐々木 2011; 鈴木 2013)

【存続を脅かす要因】  
河川開発、堰堤工事、川相変化

絶滅危惧Ⅰ類

コバノイクビゴケ

*Diphyscium perminutum* Takaki

神奈川県	2006	—
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅰ類

【判定理由】  
前回調査以降の神奈川県新産種で、環境省でも絶滅危惧Ⅰ類としている。県内の生育地は1か所確認されたのみである。

【生育環境・生態】  
湿度の高い林内の岩上に生える。

【現状】  
照葉樹林内の陰湿な沢岸の岩上に大きな群落になっていることが報告されている(佐々木・平岡 2011)。

【国内分布】  
本州(中部以西)、四国、九州、琉球列島。神奈川県が分布の東端となる(佐々木・平岡 2011)。

【県内分布】  
小田原市入生田(佐々木・平岡 2011)

【存続を脅かす要因】  
森林伐採、河川開発

情報不足

ヒメイクビゴケ

*Diphyscium satoi* Tuzibe

神奈川県	2006	—
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】  
前回調査以降の神奈川県新産種で、県内の生育地が1か所しか知られていないが、小型でわかりにくく、近縁種との判別が難しく、判定するに足る十分な情報が得られていない。

【生育環境・生態】  
寒地の森林内の岩上に生える。

【現状】  
神社境内の溶結凝灰岩に着生していたことが報告されている(佐々木 2009a)。

【国内分布】  
北海道、本州  
【県内分布】  
小田原市入生田(佐々木 2009a)

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

絶滅危惧Ⅰ類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>ツクシツバナゴケ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Coscinodon humilis</i> Mild.</td> </tr> </table>	<b>ツクシツバナゴケ</b>	<i>Coscinodon humilis</i> Mild.	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%; text-align: center;">神奈川県</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 70%; text-align: center;">絶滅危惧Ⅰ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類	1995	—	環境省	2020	—
<b>ツクシツバナゴケ</b>											
<i>Coscinodon humilis</i> Mild.											
神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類									
	1995	—									
環境省	2020	—									
<p>【判定理由】 県内の生育地が2か所しか知られておらず、どちらの生育地も不安定である。</p> <p>【生育環境・生態】 日当たりのよい高山の転石上に小型で密な群落をつくる。</p> <p>【現状】 今回の調査では箱根町駒ヶ岳頂上で大きな火成岩2個に群生していることが確認できた。丹沢山では崩壊寸前の崖の岩に極少量生育していることが前回調査で確認されている。</p>	<p>【国内分布】 北海道～九州</p> <p>【県内分布】 箱根町駒ヶ岳(頂上)、清川村丹沢山天王寺尾根分岐点</p> <p>【存続を脅かす要因】 岩場崩壊、登山道整備</p>										

チヂレゴケ科

準絶滅危惧											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>ヤマトハクチョウゴケ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Campylostelium brachycarpum</i> (Nog.) Z.Iwats., Y.Tateishi &amp; Tad.Suzuki</td> </tr> </table>	<b>ヤマトハクチョウゴケ</b>	<i>Campylostelium brachycarpum</i> (Nog.) Z.Iwats., Y.Tateishi & Tad.Suzuki	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%; text-align: center;">神奈川県</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 70%; text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	準絶滅危惧	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
<b>ヤマトハクチョウゴケ</b>											
<i>Campylostelium brachycarpum</i> (Nog.) Z.Iwats., Y.Tateishi & Tad.Suzuki											
神奈川県	2006	準絶滅危惧									
	1995	—									
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類									
<p>【判定理由】 市街化が進む標高の低い市街地近郊の緑地などで確認されている。確認地点は多くないが、微少な種で他の種と混同している場合があり、今後さらに発見されることが期待される。そのため、現時点での絶滅危険度は小さいが、それらの生育地は市街化により失われやすい。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の林内の半日陰で比較的多湿な溶岩や凝灰岩上に生育する。</p> <p>【現状】 各地の市街地近郊の公園や緑地に小さな群落を形成している。今回の調査では湯河原町や小田原市で確認している。</p>	<p>【国内分布】 本州(秋田県以南)～九州</p> <p>【県内分布】 湯河原町幕山公園(梅林)、小田原市入生田(佐々木2009)、横浜市金沢区能見台森、栄区上郷町</p> <p>【存続を脅かす要因】 市街化、森林伐採、河川開発</p>										

チヂレゴケ科

情報不足											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>ハクチョウゴケ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Campylostelium saxicola</i> (F.Weber &amp; Mohr) Bruch &amp; Schimp.</td> </tr> </table>	<b>ハクチョウゴケ</b>	<i>Campylostelium saxicola</i> (F.Weber & Mohr) Bruch & Schimp.	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%; text-align: center;">神奈川県</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 70%; text-align: center;">情報不足</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	情報不足	1995	—	環境省	2020	—
<b>ハクチョウゴケ</b>											
<i>Campylostelium saxicola</i> (F.Weber & Mohr) Bruch & Schimp.											
神奈川県	2006	情報不足									
	1995	—									
環境省	2020	—									
<p>【判定理由】 県内の生育地は1か所しか知られていないが、微少な種で他の種と混同している場合があり、判定に足る情報がまだ得られていない。</p> <p>【生育環境・生態】 渓谷の森林内の岩の上に生育する。</p> <p>【現状】 今回の調査では確認しなかった。</p>	<p>【国内分布】 本州(静岡県以西)～九州</p> <p>【県内分布】 箱根町畑宿須雲川</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採、土地造成</p>										

絶滅危惧Ⅱ類

ジョウレンホウオウゴケ

*Fissidens geppii* M.Fleisch.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

県内の生育地は前回調査以降増加して、5か所が知られているため、評価を見直した。

【生育環境・生態】

水中または水しぶきがかかる岩の上に小さな群落を作る。

【現状】

今回の調査では、南足柄市大雄山最乗寺の手水鉢上の群落が健全に維持されていることを確認している。また、近年、箱根町飛龍の滝での確認記録がある(均茶庵 online)。

【国内分布】

本州～九州

【県内分布】

湯河原町鍛冶屋(幕山公園～ししどの窟)、箱根町飛龍の滝(均茶庵 online)、南足柄市大雄山最乗寺、伊勢原市日向川、相模原市緑区生藤山栃本沢

【存続を脅かす要因】

河川開発、治山工事、岩場崩壊

キンシゴケ科

絶滅危惧Ⅰ類

アオゴケ

*Saelania glaucescens* (Hedw.) Broth.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の生育地が1か所しか確認されていない。

【生育環境・生態】

高地の地上や岩上に青緑色の塊をつくる。

【現状】

今回の調査では確認出来なかった。

【国内分布】

北海道、本州

【県内分布】

山北町熊木沢出合

【存続を脅かす要因】

登山道整備

ヒカリゴケ科

絶滅危惧Ⅰ類

ヒカリゴケ

*Schistostega pennata* (Hedw.) F.Weber & Mohr

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

県内の生育地は1か所しか知られていない。

【生育環境・生態】

山地の洞窟の中や岩隙、倒木の根の陰などの土上にまばらに生える。

【現状】

岩屋内、石仏の陰、岩の垂直面のくぼみに散在している。今回の調査でも健全に生育していることを確認できた。季節的な消長が大きい。

【国内分布】

北海道、本州(中部地方以北)

【県内分布】

湯河原町鍛冶屋(ししどの窟)

【存続を脅かす要因】

森林伐採、治山工事、マニア採取、踏みつけ、洞窟破壊

【特記事項】

亜高山帯では珍しくないが、平野部では珍しく、各地で国や地方自治体の指定する天然記念物とされている。しかし、湯河原のものはそのような指定はされていない。

☞写真あり: 口絵7

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>チャボサヤゴケ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Glyphomitrium minutissimum</i> (S.Okam.) Broth.		環境省	2020
		絶滅危惧Ⅰ類	
		—	

**【判定理由】**  
県内の生育地は前回調査以降増加して、3か所が知られているため、評価を見直した。

**【生育環境・生態】**  
山地の低木に着生する。

**【現状】**  
佐々木(2011)は尾根上の歩道沿いの落葉樹の枝上に生育しているのを確認している。

**【国内分布】**  
本州～九州

**【県内分布】**  
箱根町早雲山、芦ノ湖西岸外輪山(佐々木 2011)、清川村丹沢山天王寺尾根

**【存続を脅かす要因】**  
森林伐採

**【特記事項】**  
神奈川県箱根がタイプ産地である。

シッポゴケ科

情報不足			
<b>ヤマトマイマイゴケ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Holomitrium densifolium</i> (Wilson) Wijk & Margad.		環境省	2020
		情報不足	
		—	

**【判定理由】**  
県内の生育地は1か所しか知られていないが、他に確認出来ていない文献記録がある。野外での識別が難しい。

**【生育環境・生態】**  
暖地の樹上または岩上に塊を作る。

**【現状】**  
今回の調査では確認していない。

**【国内分布】**  
本州～琉球

**【県内分布】**  
山北町菰釣山(山頂)

**【存続を脅かす要因】**  
森林伐採、登山道整備

**【特記事項】**  
吉田ほか(1997)には丹沢山地犬越路から記録があるが、詳細は不明。

シラガゴケ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>マユハケゴケ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Campylopus fragilis</i> (Brid.) Bruch & Schimp.		環境省	2020
		絶滅危惧Ⅱ類	
		絶滅危惧Ⅱ類	

**【判定理由】**  
県内の生育地が前回調査以降発見された2か所を含め5か所しか確認されていない。

**【生育環境・生態】**  
山地から亜高山帯にかけての腐食上にまとまって生える。

**【現状】**  
鈴木均氏が丹沢山地の塔の岳、丹沢山、蛭が岳の稜線上で近年確認している。

**【国内分布】**  
本州、四国

**【県内分布】**  
箱根町金時山矢倉沢峠(標高960m付近)、山北町菰釣山(頂上付近)、蛭が岳、丹沢山(天王寺尾根～堂平)、塔の岳

**【存続を脅かす要因】**  
登山道整備、踏みつけ

## 絶滅危惧Ⅱ類

## カタシロゴケ

*Syrrhopodon japonicus* (Besch.) Broth.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内の生育地が2か所しか知られていないことは変わらないが、大雄山の生育地では新たな群落が見つかり、それぞれ安定していることが確認できたので、評価を見直した。

## 【国内分布】

本州(主に中部地方以西)～九州

## 【県内分布】

箱根町元箱根(箱根神社)、南足柄市大雄山最乗寺

## 【生育環境・生態】

杉などの樹皮上に固まって生育する。

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採、土地造成

## 【現状】

大雄山の生育状況について鈴木(2013)の報告があったが、その後の現地調査でも、大雄山では大きくわけて2か所にそれぞれ群落がみられ、安定していることが確認できた。

## センボンゴケ科

## 情報不足

## ハナシアカハマキゴケ

*Bryoerythrophyllum gymnostomum* (Broth.) P.C.Chen

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内の生育地が1か所しか知られていないが、小型でわかりにくく、判定するに足る十分な情報が得られていない。

## 【国内分布】

本州(埼玉県以西)、四国

## 【県内分布】

清川村不動尻谷太郎川

## 【生育環境・生態】

湿った岩上に生育する。

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採、河川開発、治山工事、岩場崩壊

## 【現状】

今回の調査では確認していない。

## センボンゴケ科

## 絶滅危惧Ⅱ類

## ダンダンゴケ

*Eucladium verticillatum* (Brid.) Bruch & Schimp.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

## 【判定理由】

県内では三浦半島から鎌倉にかけての地域に広範に点在している。ただし、いずれの生育地も周辺で都市化・造成が進行しており、本種の生育地である凝灰岩の路頭は大部分が消滅の危機にあると考えられる。

## 【国内分布】

神奈川県、千葉県、福岡県

## 【県内分布】

三浦半島の海蝕洞(三浦市毘沙門堂など); 鎌倉市今泉・山ノ内・扇ガ谷・十二所; 逗子市神武寺; 横浜市栄区公田町・上郷町、金沢区釜利谷・朝比奈町・谷津町、磯子区米取沢

## 【生育環境・生態】

海岸の石灰岩や凝灰岩の路頭に密な群落を作る。

## 【存続を脅かす要因】

海岸開発、道路工事、土地造成、洞窟破壊

## 【現状】

逗子市神武寺や、鎌倉市と横浜市金沢区の間にある朝比奈切通などでは大群落が確認できている。



絶滅危惧Ⅱ類			
フガゴケ <i>Gymnostomiella longinervis</i> Broth.	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
		1995	
	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
県内の生育地は鎌倉市と横浜市の境界付近に点在している。ただし、いずれの生育地も周辺で都市化・造成が進行しており、本種の生育地である凝灰岩の路頭は大部分が消滅の危機にあると考えられる。新産地の報告もあり、より客観的に判断しランクを見直した。環境省レッドリストでも絶滅危惧Ⅰ類とされていたが見直された。

【生育環境・生態】  
石灰岩または石灰質を含む岩にわずかずつ点在する。

【現状】  
逗子市神武寺や、鎌倉市と横浜市金沢区の間にある朝比奈切通などで確認されている。季節的な消長が大きいようである。

【国内分布】  
本州(千葉県、神奈川県、和歌山県)、九州、琉球

【県内分布】  
鎌倉市今泉・山ノ内; 逗子市神武寺(小久保ほか 2013); 横浜市磯子区水取沢、栄区上郷町・長倉町・公田町、金沢区釜利谷南・朝比奈町

【存続を脅かす要因】  
市街化、道路工事、土地造成

絶滅危惧Ⅱ類			
サジバオウゴンゴケ <i>Leptodontium pergemmascens</i> Broth.	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
		1995	
	環境省	2020	—

【判定理由】  
県内の生育地は、前回調査以降増加して、2か所が知られているため、評価を見直した。

【生育環境・生態】  
低地から山地の樹幹上に生育する。

【現状】  
均茶庵(online)が丹沢・加入道山山頂の樹木の根で生育を確認している。

【国内分布】  
本州中部

【県内分布】  
山北町丹沢山～蛭ヶ岳、加入道山

【存続を脅かす要因】  
森林伐採、土地造成

準絶滅危惧			
アナシッポゴケモドキ <i>Pseudosymblepharis bombayensis</i> (Müll.Hal.) P.Sollman	神奈川県	2006	情報不足
		1995	
	環境省	2020	—

【判定理由】  
県内の生育地は、前回調査以降増加して、2か所が知られるようになった。確認が難しい種で、この先さらに調査が進めば、もっと生育地が発見されると期待される。現時点では絶滅危険度は小さいと判断した。

【生育環境・生態】  
日陰のやや湿った転石や岩崖上に生育する。

【現状】  
均茶庵(online)により、山北町用木沢と湯河原町白雲の滝で確認されている。

【国内分布】  
本州～九州

【県内分布】  
湯河原町白雲の滝、山北町用木沢

【存続を脅かす要因】  
森林伐採、治山工事、岩場崩壊

情報不足

ニセホソバトジクチゴケ

*Weissia newcomeri* (Bartr.) K.Saito

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

前回調査以降の神奈川県新産種で、県内の生育地が1か所しか知られていないが、小型でわかりにくく、近縁種との判別が難しく、判定するに足る十分な情報が得られていない。

【生育環境・生態】

暖地の林内の石垣や岩崖に生育。

【現状】

佐々木(2009)は林道沿いの石垣に着生しているのを確認している。

【国内分布】

埼玉県・千葉県から琉球にかけて、と、伊豆諸島三宅島

【県内分布】

小田原市入生田(佐々木 2009)

【存続を脅かす要因】

森林伐採、道路工事

情報不足

ヤスダゴケ

*Anomobryum yasudae* Broth.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	—
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

県内の生育地は1か所しか知られていないが、分類学的実態についての情報が不足しており、その位置づけについて再検討の必要があると判断した。

【生育環境・生態】

水しぶきがかかったり、浸水したりする湿った岩上や土上に群落を作る。

【現状】

林道脇の流水のかかる崖上に巨大な群落があり、今回の調査でも生育状態はととも良好だった。

【国内分布】

本州、四国

【県内分布】

山北町玄倉

【存続を脅かす要因】

森林伐採、河川開発、道路工事

📷写真あり: 口絵7

絶滅危惧Ⅱ類

カサゴケモドキ

*Rhodobryum ontariense* (Kindb.) Kindb.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	—
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

県内の生育地は5か所程度しか知られていない。

【生育環境・生態】

腐植土上に群生する。

【現状】

かつて記録がある箱根では前回調査でも確認できていない。丹沢山系では最近、均茶庵(online)が、大室山山頂付近や、旧藤野町名倉の石楯尾神社で生育を確認している。

【国内分布】

北海道～九州

【県内分布】

箱根町早雲山(勝俣 1972)・箱根園(生出 1984)、山北町白石沢檜洞丸、相模原市緑区大室山山頂(鈴木 2013)、緑区名倉石楯尾神社、清川村丹沢山(みやま山荘周辺)

【存続を脅かす要因】

森林伐採、園芸採取

絶滅危惧Ⅰ類									
<p style="text-align: center;"><b>ナミガタチョウチンゴケ</b></p> <p><i>Plagiomnium confertidens</i> (Lindb. &amp; Arn.) T.J.Kop.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅰ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅰ類						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 県内の生育地は、前回調査以降増加して、2か所が知られているため、評価を見直した。</p> <p>【生育環境・生態】 亜高山帯の腐植土上に生育する。</p> <p>【現状】 金井(2011)は、三国山山頂付近の腐植土上に数か所で生育していることを確認している。</p>	<p>【国内分布】 北海道～四国</p> <p>【県内分布】 山北町三国山(金井 2011)、相模原市緑区丹沢山(標高1,541m)</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採</p> <p>【特記事項】 本種の本来の生育地は亜高山帯であり、ブナ帯で見られたことは注目に値する。</p>								

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="text-align: center;"><b>ヤマトチョウチンゴケ</b></p> <p><i>Plagiomnium japonicum</i> (Lindb.) T.J.Kop.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅰ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅰ類						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 県内の生育地は、前回調査以降増加して、5か所が知られているため、評価を見直した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の腐木、岩、木の根元などに生育する。</p> <p>【現状】 今回の調査では山北町用木沢の古い橋脚跡のコンクリート上にまとまった群落を確認した。</p>	<p>【国内分布】 北海道～九州</p> <p>【県内分布】 箱根町芦ノ湖西岸(佐々木 2011)、飛龍の滝、駒ヶ岳～神山(平岡ほか 2006)、山北町本棚沢・用木沢</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採、道路工事</p>								

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="text-align: center;"><b>テヅカチョウチンゴケ</b> (別名アヅミチョウチンゴケ)</p> <p><i>Plagiomnium tezukae</i> (Sakurai) T.J.Kop.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p>【判定理由】 県内の生育地はこれまでに5か所しか知られていない。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の腐植土、木の根元などに生育する。</p> <p>【現状】 今回の調査では確認していない。</p>	<p>【国内分布】 北海道～四国</p> <p>【県内分布】 秦野市鍋割山(鍋割山荘付近)、伊勢原市大山イタツミ尾根・唐沢峠・ヤビツ峠、相模原市緑区大室山</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採</p>								

絶滅危惧Ⅰ類

モミゴケ

*Schlotheimia grevilleana* Mitt.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の生育地が近接する2か所しか知られておらず、それぞれの規模も小さい。

【生育環境・生態】

暖地の樹幹や岩上に生育する。

【現状】

均茶庵(online)が蛙が丸での生育を再確認している。

【国内分布】

本州(中部地方以西)～琉球

【県内分布】

山北町蛙が丸(1,250m)・大室山(1,300m)

【存続を脅かす要因】

森林伐採

絶滅

イブキキンモウゴケ

*Ulota perbreviseta* Dixon & Sakurai

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

県内からはIwatsuki (1959)による文献記録があるのみで、過去60年以上、信頼できる生育の情報が得られていない。

【生育環境・生態】

尾根や山頂近くの低木の枝に着生する。

【現状】

Iwatsuki (1959) は丹沢山の標本を確認しているが、平岡ほか(2007a; b)などその後のこの地域の調査では確認されていない。

【国内分布】

本州(中部地方以西)～九州

【県内分布】

丹沢山(消失)

【存続を脅かす要因】

森林伐採、登山道整備、大気汚染

絶滅危惧Ⅰ類

カメゴケモドキ

*Zygodon viridissimus* (Dicks.) Brid.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

県内の産地は1か所しか知られていない。

【生育環境・生態】

山地の谷間などの樹幹上に生育する。

【現状】

今回の調査では確認していない。前回の調査では、緩やかな尾根のブナ林内、ブナ樹幹上に散在していたが、生育状況はきわめて不良であった。

【国内分布】

本州

【県内分布】

清川村丹沢山(みやま山荘～天王寺尾根)

【存続を脅かす要因】

森林伐採

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
コキジノオゴケ	<i>Cyathophorum hookerianum</i> (Griff.) Mitt.	神奈川県	1995	
		環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
県内の現在の生育地は、前回調査以降増加し、4か所となっており、評価を見直した。環境庁レッドリストでもかつては絶滅危惧Ⅰ類とされていたが、見直された。

【生育環境・生態】  
林内の樹上や岩上に群生する。

【現状】  
厚木市不動尻では最近も生育が確認されている。伊勢原市日向川の生育地は佐々木(2006)により報告されたが、その後、鈴木(2014a; b)が、最乗寺や日向川周辺で再確認をしている。

【国内分布】  
本州(中部地方以西)～琉球

【県内分布】  
箱根町箱根峠・須雲川(勝俣 1972)、南足柄市大雄山最乗寺(杉村・大橋 1999; 鈴木 2014a)、厚木市不動尻林道、伊勢原市大山、日向川(佐々木 2006; 鈴木 2014b)

【存続を脅かす要因】  
森林伐採、道路工事

## ホソバツガゴケ科

絶滅危惧Ⅰ類		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
ツガゴケ	<i>Distichophyllum maibarae</i> Besch.	神奈川県	1995	
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内の生育地が1か所のみ知られている。

【生育環境・生態】  
日陰の湿った岩上に集まって生育する。

【現状】  
今回の調査では確認していない。

【国内分布】  
本州～琉球、小笠原

【県内分布】  
箱根町畑宿須雲川

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

## コウヤノマンネングサ科

準絶滅危惧		神奈川県	2006	注目種
フロウソウ	<i>Climacium dendroides</i> (Hedw.) F.Weber & Mohr	神奈川県	1995	
		環境省	2020	—

【判定理由】  
樹状の特徴的な形態にもかかわらず県内の生育地は2か所しか知られていないが、雑草的な環境で目に付きにくく、近縁なコウヤノマンネングサ*C. japonicum*と混同している可能性もあり、現時点での絶滅の危険度は低い。湿性の草地に生育するが、そのような環境自体が開発により消失の危険性に瀕している。

【生育環境・生態】  
湿った地上、腐植土上、岩上に生育する。雑草が生育するような環境によく見られる。

【現状】  
均茶庵(online)が最近芦之湯付近で生育しているのを確認している。

【国内分布】  
北海道～九州

【県内分布】  
箱根町芦之湯・仙石原イタリ湖付近

【存続を脅かす要因】  
森林伐採、草地開発、園芸採取

準絶滅危惧

フジノマンネングサ

*Pleuroziopsis ruthenica* (Weinm.) Kindb. ex Britt.

神奈川県	2006	注目種
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

西丹沢の稜線上に点々と分布しているが、県内ではかなり稀。現時点での絶滅の危険性はあまりないが、樹状の特徴的な形態で景観的に重要であり、園芸用にも利用されるので、その動向に注目が必要である。

【国内分布】

北海道～四国

【県内分布】

山北町三国山(金井 2011)、菰釣山、白石峠・大室山・檜洞丸

【生育環境・生態】

林下の腐食土上や腐木上に群生する。コウヤノマンネングサと混成することも多いが、より標高の高い稜線付近に生育する。

【存続を脅かす要因】

森林伐採、園芸採取

【現状】

金井(2011)は、三国山山頂付近の腐植土上に大きな群落で生育していることを確認している。均茶庵(online)は菰釣山で最近確認している。

ヌマシノブゴケ科

情報不足

スギバシノブゴケ

*Bryochenea vestitissima* (Besch.) Touw

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

県内からは40年以上前の文献記録があるのみでその後十分に認識されていない。

【国内分布】

本州

【県内分布】

Mt. Tanzawa (Watanabe 1972)

【生育環境・生態】

岩壁や林床の腐食上に生育する。

【存続を脅かす要因】

森林伐採

【現状】

不明

【特記事項】

Watanabe (1972)は、Mt. Tanzawaという産地の標本(Miyawaki s.n.)を引用しているが、それが丹沢山地のどこであるのか不明である。

ハイヒモゴケ科

準絶滅危惧

キヨスミイトゴケ

*Barbella flagellifera* (Cardot) Nog.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

懸垂性の蘚類としては国内でももっとも普通の種類で、県内でも10か所以上で確認されている。現時点での絶滅の危険性はあまりないので、評価を見直した。

【国内分布】

本州～琉球

【県内分布】

箱根町芦ノ湖西岸・外輪山遊歩道沿い(佐々木 2011)、恩賜箱根公園(平岡・平岡 2008)、上二子山・金時山、南足柄市大雄山最乗寺、山北町板小屋沢・ヤブ沢の頭・犬越路・白石峠・玄倉、伊勢原市大山イタツミ尾根、相模原市緑区柏木沢

【生育環境・生態】

一般に空中湿度の高い渓谷の木から垂れ下がって生育する。

【存続を脅かす要因】

森林伐採、登山道整備、市街化

【現状】

県内の渓谷には少ない。山地の灌木が茂る稜線上で、ササ類に着生している場合が多い。恩賜箱根公園(平岡・平岡 2008)や芦ノ湖西岸や外輪山の遊歩道沿い(佐々木 2011)で旺盛な生育が確認されている。今回の調査では、恩賜箱根公園で生育量が増えていることが確認されている。

〈写真あり: 口絵7〉

ハイヒモゴケ科

絶滅危惧 I 類				
<b>ソリシダレゴケ</b> (別名シダレゴケ)		神奈川県	2006	絶滅危惧 I 類
<i>Chrysocladium retrorsum</i> (Mitt.) M.Fleisch.			1995	
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内の生育地は、前回調査以降増加して、現在 2 か所が知られているが、それぞれ多くはない。

【生育環境・生態】  
暖地の山地の樹上や岩上に生える。

【現状】  
南足柄市大雄山ではイロハモミジの樹幹上と岩壁に下垂するが、いずれも少量である。野口(1948)に記録がある大山では岩片(2001)の調査以降発見されていない。均茶庵(online)は最近、西丹沢ゴウラ沢出合で本種を確認している。

【国内分布】  
本州(関東以西)～琉球

【県内分布】  
山北町ゴウラ沢出合、南足柄市大雄山最乗寺

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

コケ植物

ハイヒモゴケ科

絶滅危惧 II 類				
<b>コハイヒモゴケ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I 類
<i>Meteorium buchananii</i> (Broth.) Broth. ssp. <i>helminthocladulum</i> (Cardot) Nog.			1995	
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内の生育地は、前回調査以降増加して、現在 4 か所が知られているので、評価を見直した。

【生育環境・生態】  
比較的暖地の樹上や岩上に生える。

【現状】  
鈴木(2017a)が西丹沢の大又沢、ゴウラ沢出合、仲の沢林道で確認しており、報告している。今回の調査では大雄山最乗寺では大量に安定して生育していることを確認した。

【国内分布】  
本州～琉球

【県内分布】  
山北町大又沢・ゴウラ沢出合・仲の沢林道(鈴木 2017a)、南足柄市大雄山最乗寺

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

ハイヒモゴケ科

絶滅危惧 I 類				
<b>ハイヒモゴケ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I 類
<i>Meteorium subpolytrichum</i> (Besch.) Broth.			1995	
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内の生育地は、前回調査以降増加して、2 か所が知られているが、それぞれ多くはない。

【生育環境・生態】  
比較的暖地の樹上や岩上に生える。

【現状】  
鈴木(2017a)が西丹沢の檜洞丸登山口で確認しており、報告している。大雄山最乗寺ではイヌガヤの幹上や石碑の上などに点在するがいずれも少量。

【国内分布】  
本州(関東以西)～琉球

【県内分布】  
山北町檜洞丸登山口(鈴木 2017a)、南足柄市大雄山最乗寺

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

ハイヒモゴケ科

絶滅危惧Ⅱ類

イトゴケ

*Neodicradiella pendula* (Sull.) W.R.Buck

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の生育地は、前回調査以降増加して、現在4か所が知られているので、評価を見直した。

【生育環境・生態】

空中湿度の高い溪谷の灌木の枝などから垂れ下がって生育する。

【現状】

佐々木(2011)が芦ノ湖西岸、深良水門と湖尻峠の間のカエデの枝から報告している。均茶庵(online)は西丹沢の西沢と犬越路で確認している。勝俣(1972)が報告している箱根町神山、早雲山では、前回の調査以降確認出来ていない。

【国内分布】

本州(中部以西)～九州

【県内分布】

箱根町深良水門～湖尻峠(佐々木 2011)、金時山、山北町西沢、犬越路～大室山

【存続を脅かす要因】

森林伐採

ハイヒモゴケ科

絶滅危惧Ⅱ類

タカサゴサガリゴケ

*Pseudobarbella levieri* (Renauld & Cardot) Nog.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の生育地は、前回調査以降増加して、現在4か所が知られているので、評価を見直した。

【生育環境・生態】

生育環境と生育型:暖地の山地の樹木から下垂する。

【現状】

均茶庵(online)は最近、箱根町金時山と、松田町寄の滝郷沢で本種を確認している。

【国内分布】

本州(神奈川県箱根以西)～琉球

【県内分布】

箱根町金時山、南足柄市大雄山最乗寺、松田町寄滝郷沢、山北町ヤブ沢の頭・善六ノタワ

【存続を脅かす要因】

森林伐採

ハイヒモゴケ科

絶滅危惧Ⅱ類

ヒロハシノブイトゴケ

*Trachycladiella aurea* (Mitt.) M.Menzel

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

鈴木(2016)がおおよそ70年ぶりに県内で再確認し、現在3か所で確認されているので、評価を見直した。

【生育環境・生態】

空中湿度の高い溪谷沿いの樹木や岩から垂れ下がって生育する。

【現状】

鈴木(2016)は、丹沢玄倉川から本種を報告した。これは県内70年ぶりの再確認であった。その後均茶庵(online)は西丹沢の大又沢林道と、芦ノ湖西岸の外輪山でも本種を確認している。

【国内分布】

本州～琉球

【県内分布】

箱根町芦ノ湖西岸外輪山、山北町大又沢・玄倉

【存続を脅かす要因】

森林伐採



情報不足									
<p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin: 0;">オオヒラツボゴケ</p> <p style="margin: 0;"><i>Ectropothecium zollingeri</i> (Müll.Hal.) A.Jaeger</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 30%;">神奈川県</td> <td style="width: 10%;">2006</td> <td rowspan="2" style="width: 60%;">情報不足</td> </tr> <tr> <td>1995</td> </tr> <tr> <td>環境省</td> <td>2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	情報不足	1995	環境省	2020	—	
神奈川県	2006		情報不足						
	1995								
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 横浜市南部から鎌倉市にかけて報告があるが、類似の環境の調査が不十分である。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の濡れた岩上に生育する。</p> <p><b>【現状】</b> 今回の調査では確認しなかった。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州～琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 鎌倉市二階堂・今泉台、横浜市栄区上郷町(2か所)</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 市街化</p>								

イワダレゴケ科

絶滅危惧Ⅰ類									
<p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin: 0;">オオミミゴケ</p> <p style="margin: 0;"><i>Meteoriella soluta</i> (Mitt.) S.Okam.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 30%;">神奈川県</td> <td style="width: 10%;">2006</td> <td rowspan="2" style="width: 60%;">絶滅危惧Ⅰ類</td> </tr> <tr> <td>1995</td> </tr> <tr> <td>環境省</td> <td>2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類	1995	環境省	2020	—	
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅰ類						
	1995								
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 均茶庵(online)が70年ぶりに丹沢・塔ノ岳で再確認したので、県内で1か所でのみ生育が確認されている。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 暖地の山地の樹木や岩上に生育する。</p> <p><b>【現状】</b> 均茶庵(online)が最近塔ノ岳で確認している。野口(1947)では「箱根山」からの報告があるが、その後確認されておらず詳細は不明。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(関東以西)～九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 清川村塔ノ岳、箱根山(野口1947)</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 森林伐採</p>								

ツヤゴケ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin: 0;">オオミツヤゴケ</p> <p style="margin: 0;"><i>Entodon conchophyllus</i> Cardot</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 30%;">神奈川県</td> <td style="width: 10%;">2006</td> <td rowspan="2" style="width: 60%;">絶滅危惧Ⅰ類</td> </tr> <tr> <td>1995</td> </tr> <tr> <td>環境省</td> <td>2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類	1995	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類	
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅰ類						
	1995								
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p><b>【判定理由】</b> 前回調査では箱根地域に限られていたが、丹沢地域からも確認され(平岡ほか 2007a; b)、その後も多くの生育地が確認できているので、評価を見直した。生育地点数は多いが、環境省の評価(有川 2015)との整合性も考え、ひとまずこのランクとする。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の樹上に生育する。</p> <p><b>【現状】</b> 平岡ほか(2007a; b)、鈴木(2013)により鍋割山など丹沢主稜線ぞいに複数地点で確認されている。箱根からも多数地点で確認されており(平岡・平岡 2008; 鈴木 2014b; 均茶庵 online)、今回の調査でも恩賜箱根公園で健全に生育していることを確認している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 箱根町恩賜箱根公園(平岡・平岡 2008)、駒ヶ岳～神山・仙石原イタリ湖湖畔・金時山矢倉沢峠、秦野市鍋割山など</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 森林伐採</p> <p>📷 写真あり: 口絵7)</p>								

絶滅危惧Ⅱ類

オオタマコモチイトゴケ

*Aptychella robusta* (Broth.) M.Fleisch.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

県内の生育地は5か所知られている。より客観的に評価し判断を見直した。

【生育環境・生態】

暖地の高山の稜線の樹幹に生育する。

【現状】

今回の調査では箱根駒ヶ岳で安定して生育していることを確認した。

【国内分布】

本州～九州

【県内分布】

箱根町神山(頂上および直下付近)・駒ヶ岳(頂上からコルにかけて)・湯ノ花沢源頭・金時山(頂上付近)、山北町菰釣山(ぶな沢乗越から頂上に向かう尾根筋)、清川村丹沢山(みやま山荘付近)、津久井町丹沢山(不動ノ峰に向かう尾根筋)

【存続を脅かす要因】

森林伐採、登山道整備

◀写真あり: 口絵7▶

イトヒバゴケ科

準絶滅危惧

ツルゴケ

*Pilotrichopsis dentata* (Mitt.) Besch.

神奈川県	2006	準絶滅危惧
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の生育地は西丹沢地域の7か所が知られている。現時点での絶滅危険度は小さい。

【生育環境・生態】

林内の樹上や岩上などに生える。

【現状】

金井(2011)が三国山で、均茶庵(online)が最近、畦が丸や菰釣山で確認している。生出(1984)は箱根町山伏峠から報告しているが、箱根地域からはその後確認されていない。

【国内分布】

本州～琉球

【県内分布】

箱根町山伏峠(生出 1984)、山北町三国山(金井 2011)、用木沢・ヤブ沢ノ頭・ツツジ新道・畦ヶ丸・白石峠・菰釣山

【存続を脅かす要因】

森林伐採

ヒラゴケ科

準絶滅危惧

シタゴケ

*Bissetia lingulata* (Mitt.) Broth.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

丹沢の広い地域で確認されたので、評価を見直した。

【生育環境・生態】

山地の樹上に生える。

【現状】

金井(2011)が三国山で、均茶庵(online)がその後三国山、菰釣山、畦が丸、檜洞丸、石棚山、大室山、丹沢山、大丸・小丸などで確認している。

【国内分布】

本州～九州

【県内分布】

箱根町神山～駒ヶ岳、山北町三国山(金井 2011)、西丹沢地域(ヤブ沢ノ頭～檜洞丸、大室山～加入道山周辺、畦ヶ丸周辺)・菰釣山、清川村丹沢山～天王寺尾根・タイラゴヤ沢、秦野市大丸・小丸

【存続を脅かす要因】

森林伐採

情報不足		2006	情報不足
タチヒラゴケ <i>Homaliadelphus targionianus</i> (Mitt.) Dixon & P.Vard.	神奈川県	1995	
	環境省	2020	—

【判定理由】  
県内の生育地は前回調査以降増えてこれまでに4か所知られているが、県内では珍しく、また、消長があるらしく、より慎重な検討が必要である。

【生育環境・生態】  
岩上に垂れ下がるように生育する。日本では石灰岩上に生える。

【現状】  
平岡ほか(2004)は生藤山柏木沢できわめて少量が枯れ枝に付着しているのを確認したが、その後伊勢原市日向川(佐々木 2006)、小田原市入生田(佐々木 2009)、で報告されている。均茶庵(online)は相模原市緑区石老山顕鏡寺で確認している。

【国内分布】  
本州～九州

【県内分布】  
小田原市入生田(佐々木 2009)、伊勢原市日向川(佐々木 2006)、相模原市緑区生藤山柏木沢(平岡ほか 2004)、石老山顕鏡寺(均茶庵 online)

【存続を脅かす要因】  
森林伐採、治山工事、岩場崩壊

準絶滅危惧		2006	絶滅危惧Ⅱ類
コメリンスゴケ <i>Neckera flexiramea</i> Cardot	神奈川県	1995	
	環境省	2020	—

【判定理由】  
丹沢の複数地点で確認されており、現時点での絶滅危険度は小さいので、より客観的に判断しランクを見直した。

【生育環境・生態】  
谷間の樹木から下垂して生育する。

【現状】  
今回の調査では大雄山最乗寺の樹幹で確認している。均茶庵(online)は西丹沢世附樅の木沢で確認している。箱根町からは記録(勝俣 1972; 生出 1984)があるが他に信頼のおける報告はなく前回調査でも確認できていない。

【国内分布】  
本州～九州

【県内分布】  
南足柄市大雄山最乗寺、山北町世附樅の木沢、板小屋沢・白石沢・ヤブ沢ノ頭・ツツジ新道、清川村タイラゴヤ沢

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

絶滅危惧Ⅰ類		2006	絶滅危惧Ⅰ類
フクラゴケ (別名ナワゴケ) <i>Eumyrium sinicum</i> (Mitt.) Nog.	神奈川県	1995	
	環境省	2020	—

【判定理由】  
確かな文献記録はあるが、いずれの生育地でも現在の状況はわからない。

【生育環境・生態】  
樹上または岩上に生える。

【現状】  
前回の調査でも今回の調査でも確認出来なかった。

【国内分布】  
本州(宮城県以南)～九州

【県内分布】  
山北町明神山(野口 1947)、用木沢(平岡ほか 1997)

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

情報不足

## キノクニキヌタゴケ

*Palisadula chrysophylla* (Cardot) Toyama

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内の生育地は1か所しか見つかっていないが、普通種であるコモチイトゴケと混同されている可能性が高く、判定のためには調査が不十分である。

## 【国内分布】

本州～琉球

## 【県内分布】

湯河原町幕山

## 【生育環境・生態】

暖地の樹上や岩上に生える。

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採

## 【現状】

今回の調査では確認できなかった。

情報不足

## ミヤベツノゴケ

*Folioceros fuciformis* (Mont.) D.C.Bharadwaj

神奈川県	2006	情報不足
	1995	
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内の確認されている生育地は限られているが、十分に認識されていない。

## 【国内分布】

本州(千葉県以西)～琉球

## 【県内分布】

横浜市金沢区釜利谷町(河津 2005)、藤沢市村岡東湘南ヘルスイノベーションパーク

## 【生育環境・生態】

低地の湿った崖などに葉状体のコロニーを作る。

## 【存続を脅かす要因】

市街化、森林伐採

## 【現状】

藤沢市の湘南ヘルスイノベーションパークでは、2009年ごろの環境影響調査で本種の生育が確認されていたが、2021年現在も現地での生育が確認されている。

絶滅

## キノボリツノゴケ

*Dendroceros japonicus* Steph.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅰ類
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅰ類

## 【判定理由】

県内からは牧野富太郎による1886年の採集記録(北川1998)があるのみで、それ以来130年以上、信頼できる生育の情報が得られていない。

## 【国内分布】

本州(千葉県～紀伊半島)～琉球、小笠原

## 【県内分布】

箱根町元箱根箱根神社(消失)

## 【生育環境・生態】

空中湿度の高い渓谷などの樹幹や枝に着生。

## 【存続を脅かす要因】

市街化、森林伐採

## 【現状】

1886年の採集記録がある箱根町の箱根神社付近は、それ以来平岡ほか(2006)など、くまなく調査されているが、発見できていない。現地は既にキノボリツノゴケが生育できるほど湿潤ではなくなっていると思われる。